

電子レンジを不便にしてみたら

京都先端科学大学

川上 浩司

不利益、つまり「不便だからこそ得られる益」の連載をしています。不利益の話をする、「わかる、わかる、昔は不便だったけど良いこともたくさんあったよね」とノスタルジーに浸る方もいらっしゃると思います。ただ、そこで止まってしまうと、工学という分野に身を置く私としては、ダメなのです。不便だからその益が得られる。新しいモノやコトを、デザインしないといけません。

そのようなデザインとして、先月には京都大学の生協で売り出してもらった

「素数ものさし」を紹介しました。メモリが歯抜けで素数のところにしかない物差です。「なんでわざわざ不便にするの」と言われながらも、「でも、なんだか欲しくなる」ということで、何万本も売れている京大の定番お土産になっています。

先月は、「かすれるナビ」を紹介しました。カーナビでも歩行ナビでも、正確で詳細な地図情報と現在位置が表示されるのが普通ですし、それがナビを便利に使うためのキモです。それに対して「かすれるナビ」は、移動した経路がナビの

上で少し掠れて見えにくくなります。3回も同じところを通ると、道の周りが真っ白で見えなくなります。便利のキモが失われてゆくのです。つまり不便利です。でも、使ってみたくありません。

今月は、「曲線電子レンジ」を紹介します。電子レンジに付いている「あたため1分ボタン」は、便利です。ものぐさな私としては、このボタン以外はほとんど使ったことがありません。私の父親も、このボタンを「熱燗1分ボタン」と呼んで、毎晩便利に使っていました。一方で、不利益システムとして考案した「曲線電子レンジ」には、この便利ボタンは付いていません。

「曲線電子レンジ」のインタフェースは、ドア一面に貼り付けた2次元タッチ

パネルと「スタートボタン」だけです。2次元タッチパネルでは、横軸が時間で縦軸が出力の曲線が入力できます。「はじめチョロチョロなかパッパ」などの加熱パターンを、曲線として入力できるのです。そして、お気に入りの曲線が書いたら、スタートボタンを押すだけ。



私の父親が生きていて、このインタフェースの電子レンジを使うところを空想すると、最初は「面倒臭い」と思うでしょう。以前は熱燗1分ボタンを押すだけで良かったのに、今は毎晩曲線を引い

てからスタートボタンを押さねばなりません。ちょっとだけ手間がかかります。熱燭1分ボタンと比べると、曲線を引くことが無駄なことに思えるでしょう。

でも、ある時、手が何かに触れるか何かで、いつもと違う曲線を引いてしまい、「ま、これでもいいか」とスタートボタンを押したら、私の父親なら「マイベスト熱燭曲線」を発見するかも知れません。便利な「熱燭1分ボタン」では、その可能性はゼロです。ボタンを押すスピードを変えてみても押す角度を変えてみても、熱燭の出来は変わりません。

ワンプッシュボタンというのも便利ですし、いつもの安定のおいしさ、というのも便利なことのように思えます。ただ、その「おいしさ」がマイベストなの

か、確かめようがありません。電子レンジのメーカーを信じて、きつとおいしいに違いない、と思いつまむしかないのです。ユーザが工夫する余地はありませんし、ユーザに発見の喜びをもたらす可能性はゼロです。

不便から得られる益には何種類もあるのですが、その中でも「工夫する余地が大きい」とことと「発見や出会いの可能性が高い」というのは、二大巨頭です。一方で便利なモノやコトは、最適化されていて、色々と試すことや、思いがけぬことを見つけることを妨げます。局所最適解でしかないかも知れないのに、そこから飛び出して他にもっと良い解を探しにくくことを、許してくれません。

雑誌「オレンジページ」のウェブマガ

し、レンジにネット経由で転送するといふのはいかが？」と提案されました。

たしかにメーカーの提案は理にかなっています。ただ、そうするととも「便利」な家電になってしまいそうです。「不便だからこそ面白いアイデアなのに」と思い、製品化は断念しました。どうせIoT技術を使うのなら、たとえば曲線レンジ版クックパッドのようなサイトを準備し、レンジからそのサイトにマイベスト曲線が投稿できたり、投稿されている曲線をレンジにダウンロードして使えたりする方が、面白いと思うのです。

ジン (<https://www.wellbeing100.jp/posts/3576>)「ウェルビーイング100」の取材を受けた時、編集の方がこの曲線電子レンジをいたく気に入ってくださいました。オレンジページとは「料理」というキーワードで、ウェルビーイングとは「主体性」というキーワードで、つなげてもらえたようです。そして是非、製品化してくれと頼まれました。

実は以前に、製品化を検討していた時がありました。その時にメーカーは、強力な電磁波が飛び交うところに大きな面積の2次元タッチパネルを貼ると故障の原因になるのでは、と思ったようです。

「我が社はIoTにも力を入れていますが、家電はなんでもインターネットにつなぐことができません、レンジにパネルを貼らず、スマホのパネルを使って曲線を入力

川上浩司（かわかみひろし）

一九六四年生まれ。京都大学工学部、同工学研究科修士。京都大学助教授・特定教授などを経て京都先端科学大学工学部教授。不利益の研究で学会論文賞・出版賞多数。著書に『不利益という発想』（二〇一七）など多数。